

【学校教育目標】 ふるさとを愛し、自立の基礎を身につけた児童の育成 ～ 一歩上のわたしをめざして ～	【本年度の重点目標】 ◎ 誰にでも自分から元気なあいさつができる児童の育成（合言葉「あいさつ名人」） ◎ 自分からみんなのために頑張る児童の育成（合言葉「自分から名人」）
--	--

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
学 力 向 上	知識・技能 思考力・判断力・表現力	◎基礎学力の確かな定着 【指標】全国学力・学習状況調査（6年）福岡県学力調査（5年）標準学力調査（全学年：12月実施） <結果> 全国学力・学習状況調査：国語97 算数96 福岡県学力調査：国語61.9 算数46.8 標準学力調査：国語46.9（前年度比+3.5） 算数48.7（前年度比+4.5） ・校内研究「主体的に学び、自らの考えを表現できる授業づくり」で、算数科を中心に、自己存在感の感受や共感的人間関係の育成、自己決定の場の提供など、生徒指導上の視点を生かした全員参加の授業づくりを行い、全職員で、学力を支える取組の徹底を図った。（本年度研究発表会実施） ・基礎学力定着（特に、C・D層の児童）のために、全学年チャレンジタイム等の時間を設定し、テキストや補充プリント、AIドリルのキュビナを活用しながら、読解力や計算力等の向上を図った。 ・算数科を中心に、各学年の重要単元を洗い出し、学力C・D層の児童を考慮した効果的な指導形態（TT指導・分割授業等）を踏まえて、年間を見通した指導計画を作成し、複数体制指導をした。	2.6	○昨年度からの伸びをみると、本年度の分割授業（きめ細やかな指導）について、高く評価できる。 ○子どもたちの学習中の姿勢・態度が素晴らしい、先生を見ている子どもの目の色が昨年度とはちがう。 ○学力が伸びた要因を分析して、分割授業（きめ細やかな指導）は、これからも続けてほしい。 ○これから重要であるICTの活用を推進していただきたい。 ○国語科の漢字力・読解力・語彙力をしっかりと身につけさせていただきたい。 ○算数科の四則計算、分数、小数をしっかりと身につけさせていただきたい。	○算数科を中心に本年度より実施している自己存在感の感受や共感的人間関係の育成、自己決定の場の提供など、生徒指導上の視点を生かした全員参加の授業づくりを行い、全職員で、学力を支える取組の深化・徹底をこれからも進める。 ○効果的な分割・TT授業（きめ細やかな指導）の行い方を計画的に、かつ、確実に取り組む。 ○各種学力調査等の分析後、個別の課題に応じた指導・支援を行う。 ○国語科、算数科を中心に低学年からの基礎基本の確実な定着を図る。（チャレンジタイムの充実）
		◎家庭学習習慣化の確立（宿題+自学+準備） 【指標】10分×学年+10分以上への到達児童80% <結果> 家庭学習時間目標達成率 1学期：平日64.7% 休日53.5% 2学期：平日53.1% 休日50.3% ・「家庭学習のすすめ」「生活リズム&家庭学習がんばりカード」を配布し、一人ひとりの達成目標を設定し、取組を進めた。 ・家庭学習強化週間の設定を行い、家庭と連携しながら、家庭学習強化週間で、「生活リズム」「学力向上」「自己肯定感」を学校課題のキーワードとして掲げ、家庭学習の習慣化を図った。	2.6	○与えられた宿題はよくしている。（この取組は大切） ○学習時間が少ないので、今後は自主学習（自学）の内容等も工夫する必要がある。特に、小中一貫教育の視点に立った取組を工夫することも大切である。	○自主学習（自学）の量と質の両面から、行い方（学年の発達段階に応じた進め方）を指導する。 ○お手本となる「自学のモデル」を提示したり、称賛したりしながら、自学の内容面でのレベルアップを目指す指導を行う。
		◎規範意識（あいさつをする）の醸成 【指標】児童アンケートにおいて「できている」の回答80%以上 <結果> 「自分からあいさつができている」91% ・学校重点課題「あいさつ名人」「自分から名人」を設定し、全校であいさつの推進を図った。 ・全校放送で「あいさつ名人」「自分から名人」を紹介し、あいさつをする機運を高める取組（称賛活動）を行った。	3.5	○称賛活動について評価できる。特に6年生をお手本とする登校時の挨拶は素晴らしい。 ○このような成功体験を重ねて子どもたちは成長できる。	○次年度も児童会活動を中心に、学校全体にひろがる「あいさつ運動」の取組を行う。称賛活動についても同様に推進する。 ○高学年（特に、6年生）のリーダーシップを育成できるよう、諸行事を活用しながら、その意識の高揚を図る。
	◎言葉を大切にしている児童の育成 【指標】生活アンケート実施（毎月）100% <結果> 生活アンケート実施（毎月）100% ・「生活アンケート」を実施し、言葉を大切にしている指導を行った。 ・保健給食委員会が中心となり、「ふわふわことば・いいねカード」の取組（称賛活動）を年間を通して実施した。 ・人権学習（障がいに関する正しい認識を培う学習、車いすテニス・バスケットの交流学習、手話・点字体験、アサーション等）を実施した。	3.5	○「違うことの大切さ」について児童が気づくことが大切、このような学習を今後も取組んでほしい。 ○今後も障がいについて、児童のみなさんに理解を広めていただきたいと思います。 ○「発達障害」等について、社会問題としてどう伝えていくのが課題である。	○ことばについては、「いじめ・生活アンケート」を活用したり、委員会活動からの取組を発信したりするとともに、担当係を中心に計画的に道徳や人権学習の中で、ことばの指導を学校全体として行う。	
道徳性・人間性	総合所見	◎いじめの未然防止・早期発見・早期対応の徹底 【指標】いじめ・生活アンケート実施（毎月）による未然防止100% <結果> いじめ・生活アンケート実施（毎月）100% ・児童は毎月いじめアンケートを行うとともに、保護者からの情報も活かしながら、いじめの未然防止・早期発見に努めた。 ・教育相談を定期的に実施し、児童の実態を把握し、職員で情報共有をしながら、いじめの未然防止・早期発見に努めた。	3.1	○先生方が個別に話を聞いている点について、評価できる。 ○「いじめの早期発見」の取組は今後も続け、特に「いじめのサイン」について家庭や地域とともに見逃さないことが大切である。	○終礼（週に1回）時に、気になる児童の情報共有を行う。 ○月1回の「いじめ・生活アンケート」をもとに、聞き取りを行い、早期発見・早期対応に努める。
		・児童会による「あいさつ運動」や委員会による「ふわふわことば・いいねカード」の取組は、今後も継続し、学校全体に取組を広げていく。 ・「障がい発言」を含む言葉を大切にしている児童の育成については、学校全体でアンテナを高く張りつつ、課題解決のための計画的な取組を構築していく。 ・いじめについては、アンケートとともに、日常の児童とのコミュニケーションを十分にとり、小さな変化（サイン）も見逃さないように、これまで以上に教職員の意識を高める。			
学 び に 向 か う 力	総合所見	◎早寝・早起き・朝ごはん・メディア等の推進 【指標】達成児童90% <結果> 達成率 1学期：メディア87.5% 睡眠79.9% 朝食95.1% 2学期：メディア79.7% 睡眠74.4% 朝食73.5% ・家庭学習強化週間の設定を行い、家庭と連携しながら、家庭学習強化週間で、「生活リズム」「学力向上」「自己肯定感」を学校課題のキーワードとして掲げ、生活リズムの見直しを図った。 ・講師を招聘し、メディアの危険性について学習した。	2.7	○生活リズムとメディアは密接な関係があるので、これらの取組は大切である。 ○メディアの危険性を知ることが大切である。 ○スマホを買い与える保護者にその責任をしっかりとらせる必要がある。 ○保護者ができること（制限、フィルタリング等）もある。 ○情報過多の現状から子どもに正しい判断力が必要である。	○PTAと連携し、効果的な時期に家庭学習強化週間を設定し「早寝・早起き・朝ごはん等」の取組を推進する。 ○次年度もメディアの学習を位置付ける。また、その危険性について保護者啓発を行いながら、家庭の協力を依頼する。
		・児童のメディアの使い方については、個に応じた指導が必要であり、家庭学習強化週間での結果をもとに、各自に合った目標設定をする。 ・メディアについての講師招聘授業は保護者も参加でき効果的な内容であり、今後も継続実施していく。 ・中学校と連携し、スマホ等の約束や対応等を今後も検討していく。			
家 庭 ・ 地 域 と の 連 携	総合所見	◎保護者や地域への意見集約とその活用 【指標】学習参観・運動会アンケートの実施 <結果> 学習参観・運動会アンケートの実施100% ・運動会をはじめとする学校行事の再開ができた。 ・学習参観、運動会において保護者の思いや願いを受け止め、教育活動の改善を図った。	3.5	○様々な行事の子ども姿はともよくがんばっていると思います。 ○今後は、地域学校協働活動として、地域住民は様々なお手伝いができると思う。	○次年度も継続してアンケートを実施する。また、学校運営協議会等の場で、各方面からご意見をいただく機会を増やし、取組の改善や信頼される学校づくりに確実につないでいく。
		・引き続き、各種行事等では保護者アンケートを実施し、保護者等の意見集約をし、学校と家庭・地域が協働で子どもを育成していく取組を模索していく。 ・次年度は、学校運営教委議会を設置し、その機能を十分に生かし、さらなる家庭・地域との連携を図る。			